

### ◎ストレージの返却について

液化室では、ストレージを保有していない研究室に対して、液化室所属のストレージを貸出する業務を行っています。現在（'90年9月）液化室所属のストレージは、新旧合わせて500Qが1台、250Qが1台、100Qが12台、65Qが3台、50Qが8台、30Qが3台、10Qが1台とバラエティー豊かに取り揃えておりますが、10Qを除いてすべて出払っております。が、中には耐用年数が過ぎて、自然蒸発率が3～4倍となったストレージもあり、それでも蒸発ロスには目をつぶって使用しているものもあります（この場合は、急激な蒸発が起こって危険なこともあり、液体ヘリウムの残量が予測できません）。また、ここ数カ月の傾向として、オーバーホールとなる週の対策に大型ストレージを要望する研究室も増え、現在の液化室の在庫では対応しきれなくなっています。

そこで、以上の状況により、液化室からのご願いとして、研究の中断・装置の改良等でしばらく使用しないストレージ（液化室所属）を、一時的（1～2週間）に借用を希望する研究室に回して、ストレージの効率よい運用をはかりたいと思います。したがって、およそ3週間以上使用する予定のないストレージは、液化室に一時的に返却して下さるか、研究室間どうしの貸出の話合いには、積極的に応じるようお願いいたします。

また、蒸発ロスが大きくなったにもかかわらず、長期間貸出のため、ストレージの保守ができないものが増えました。蒸発ロスが気になる研究室は早期に修理いたしますので、液化室までご連絡下さい。

### ◎回収Heガス洩れは所内放送します！

回収ヘリウムガスが洩れている場合、今までは（1988・9・12の特集号に述べてあるように）、液化室でどこのブロックか見当をつけてから各研究室を調べました。この確認にはかなり時間がかかるので、低温委員会で検討した結果『所内放送』をしてもらうことになりました。放送がありましたら研究室ですぐに点検し、該当する研究室は液化室までご連絡下さい。

ちなみに、6月の回収率低下は、x研究室の装置で回収ラインがはずれていたものです。この時は洩れ箇所の発見に1週間近くかかりました。

### ◎液体窒素貯槽の更新と自動供給化について

本年度に、液体窒素貯槽（6000Q）の更新と液体窒素の自動計量化を予定しています。先日のアンケートはそのマーケット調査のためでしたが、その際いろいろ不備があった事をお詫びします。設置時期はまだ未定ですが、いろいろ御不便をおかけすると思いますので、宜しくご協力をお願いします。日程等、詳細は後日お知らせします。

◎ヘリウムガス回収率について

4月(4/9~5/14)の回収率は、以下の通りです。

$$\text{回収率} = \text{回収量} / \{ (\text{供給量} + \text{月始め在庫量}) - \text{月終り在庫量} \}$$

81.9% 6181.3 Q 7732.5 Q 1507.0 Q 1688.0 Q

5月(5/14~6/4)の回収率は、以下の通りです。

$$\text{回収率} = \text{回収量} / \{ (\text{供給量} + \text{月始め在庫量}) - \text{月終り在庫量} \}$$

84.6% 4720.9 Q 5522.5 Q 1688.0 Q 1629.4 Q

6月(6/4~7/9)の回収率は、以下の通りです。

$$\text{回収率} = \text{回収量} / \{ (\text{供給量} + \text{月始め在庫量}) - \text{月終り在庫量} \}$$

75.8% 6326.0 Q 8696.6 Q 1629.4 Q 1983.9 Q

7月(7/9~8/6)の回収率は、以下の通りです。

$$\text{回収率} = \text{回収量} / \{ (\text{供給量} + \text{月始め在庫量}) - \text{月終り在庫量} \}$$

89.6% 6165.6 Q 6566.5 Q 1983.9 Q 1672.2 Q

8月(8/6~9/3)の回収率は、以下の通りです。

$$\text{回収率} = \text{回収量} / \{ (\text{供給量} + \text{月始め在庫量}) - \text{月終り在庫量} \}$$

83.9% 5390.2 Q 6791.1 Q 1672.2 Q 2041.4 Q

